

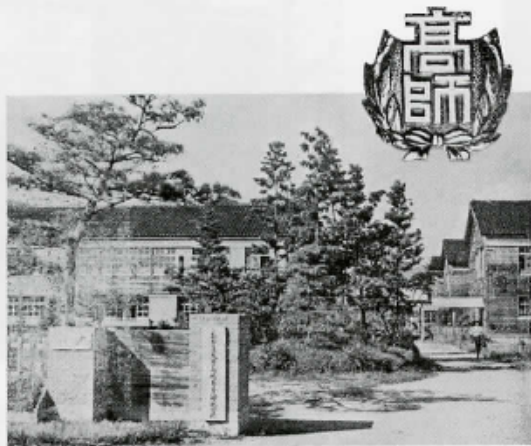
#### ④ 「岡崎高等師範学校跡」 記念碑

1949年に新制名古屋大学が発足した際、名大に包括された旧制学校の一つに岡崎高等師範学校があります。岡崎高師は、戦時体制下において科学技術者の動員を計画した国策に沿う形で、理科系の中等教員養成を目的として1945年4月に設置されました。

岡崎高師は、その名のとおり、岡崎市内（市立工業学校跡地。現在の愛知教育大学附属岡崎中学校地）に創立されましたが、第1回入学式直前の7月19日深夜の岡崎市空襲により、すべての校舎を焼失した状態で8月15日の終戦を迎えています。その後、同校は市内針崎町の勝鬘寺内に生徒宿舍（振風寮）を設け、三菱重工業針崎工場青年学校を仮校舎として本格的な教育活動を開始するとともに、本格的な移転先の検討を進めました。

その結果、岡崎高師は12月に豊川市内の旧海軍工廠工具養成所（現在の県立豊川工業高等学校地）に、また振風寮も同じ工具養成所の寄宿舎（現在の豊川市文化会館、市立代田小学校地）に移転しました。写真の記念碑は、岡崎高師創立30周年を記念して同校の同窓会「黎明会」によって設置が計画され、豊川市文化会館前庭に1980年6月に建立されました。碑文は、岡崎高師初代校長を務めた水野敏雄の揮毫です。

岡崎高師は、新制名大へ包括された際に「名古屋大学岡崎高等師範学校」となり、そこには名大豊川分校（旧教養部）が併置されました。1952年3月、岡崎高師は第4回卒業式の後に閉校式も挙行政され、わずか7年間の校史に幕を閉じました。なお、岡崎高師の閉校にともなって名大豊川分校は名古屋市内の名大瑞穂分校に統合され、名古屋大学分校（旧教養部）となりました。



▲岡崎高師正門（『岡崎高等師範学校誌』1950年より）



▲記念碑

